

地域に伝わる伝説や民話、文化財などを紹介

# にしあいづ物語100選

その19

文：長谷沼 清吉<sup>せいきち</sup>さん

## ば 化ケ物沢の伝説

旧新郷小学校と笹川郵便局との間の沢を「化ケ物沢」という。2つの説がある。

1つは「生き埋め説」である。江戸時代、樟山村の肝煎<sup>くぬぎやま きもいり</sup>が役人の非道にあい、財産を召しあげられてしまった。復讐しようとしたが果たせず、高齢なので自ら死んで神仏の力にすがって思いを果たそうと、小学校裏の墓地に生き埋めにさせたという。以来、時々怪霊が現れたので、化ケ物沢と名付けたという。この話の元は、元禄10年（1697）の肝煎喜三郎が未進金を出したために肝煎職と田宅を召しあげられ逐電し、代わって柴崎村の肝煎忠左衛門の弟小右衛門が未進金を弁納し樟山村の肝煎になったという話。しかし、喜三郎は5年後に帰村しているので生き埋め説には疑問が残る。

もう1つは、「オサイ亡霊説」である。樟山から平明に奉公に来ていたオサイが不義の子を身ごもり、誰にも相談できず悩んだ末に笹川に身投げして命を絶った。哀れんだ村人が村境の墓に埋葬した。ところが夜な夜な子を抱いたオサイが「この子を抱いてください。抱いてやってください」と現れるので道行く人が途絶えてしまった。この話を聞いた上小島善応寺の和尚様が、オサイの霊を寺に連れ帰り、読経を唱え成仏させたので現れなくなったという。ある夜、オサイが和尚様の枕元に立って感謝を述べ、「これからはお産で亡くなる人がないように守ります。」と告げたという。

町史6巻上「民俗」には、新村の薄キミ談の六部の生き埋め話と、呼賀の仲川スガによる高目八屋敷墓地の「オボコ抱き」の化け物の話が載っている。



上小島の旧善応寺地内のオサイ神様



↑「化ケ物沢」付近



## 今月の表紙

今月の表紙は10月5日に行われた西会津小の交通安全鼓笛パレードから。児童の皆さんは、日頃の練習の成果を發揮し、上手な演奏・演技で事故防止を呼び掛けました。(15ページに関連記事)

## 編集後記

血圧について掘り下げた今月の特集。いかがでしたでしょうか。私はどちらかというと血圧が低めなので、今まで血圧を意識したことはあまりなかったのですが、今回の特集を書き進めるうちに少し思い当たることがありました。それは「仮面高血圧」。健診のときに血圧を測ってもらうと低めなんですけど、昼間何気なしに測ったときなどは健診時より数値が高かったような気がします。それを思い出して「あれ？まさか……？」とはっとしました。毎日の血圧測定、始めようかな……。血圧の前にダイエット 長谷川祐一